

## 工学研究科 生産システム工学専攻 博士後期課程

### 【教育目標】

生産システム工学専攻では、ものの生産に関連するあらゆる技術と概念（設計、生産、エネルギー、デバイス、情報など）をシステムのにとらえ直し、さらにそれをソフトおよびハードの両面から、技術を発展させるための教育研究を行います。本専攻は、「機械工学」「電子情報通信工学」「情報システム工学」の3分野で構成され、さまざまな生産技術を総合科学としてとらえて、研究を深化させていきます。これにより、「次世代の工業製品やシステムを生み出す高機能なシステムを、開発・構築・管理できる研究者・技術者の育成」を教育目標としています。

### 【ディプロマ・ポリシー】

生産システム工学専攻では、「次世代の工業製品やシステムを生み出す高機能なシステムを、開発・構築・管理できる研究者・技術者の育成」という教育目標に基づき、生産システム工学分野における高度な知識・技能を修得し、かつ所定の期間在籍し所定の単位を修得して、博士論文の審査に合格した者に学位を授与します。なお、学修・研究について著しい進展が認められる者については、在学期間を短縮して博士後期課程を修了できます。

学位論文の審査では以下の基準により総合的に評価します。

- (1) 学位申請者が本専攻の工学分野に主体的に取り組んだ研究成果であること。
- (2) 論文の研究課題が、本専攻分野の学問的蓄積を踏まえて明確に示され、学術的あるいは社会的な意義を有すること。
- (3) 論文の新規性又は独創性が明示され、本専攻分野の学問の発展に貢献できる内容を含むこと。
- (4) 文献資料などによる先行研究調査や事実調査が適切であり、研究の位置づけを明示していること。
- (5) 研究の方法が明確かつ具体的に記述されていること。
- (6) 論文の内容において語法、文章表現、引用等が適切になされ、博士論文として体裁が整っていること。
- (7) 学位論文審査会を含めた論文審査過程において論文内容の発表と質疑に対する応答が、論理的かつ明解に行われたこと。
- (8) 学術研究が従うべき規範と研究倫理を守っていること。

### 【カリキュラム・ポリシー】

生産システム工学専攻では、「次世代の工業製品やシステムを生み出す高機能なシステムを、開発・構築・管理できる研究者・技術者の育成」という教育目標に基づき、以下のような教育研究課程を編成・実施します。

- (1) 機械工学・電子情報通信工学・情報システム工学の各分野における最先端の講義を体系的に配置し、次世代の工業製品のシステム開発・設計・生産における高機能化を目指して教育と研究を行う。
- (2) 機械工学・電子情報通信工学・情報システム工学の各分野の工学的諸問題の研究に対し、自ら課題探究を行い、問題解決に必要な能力を涵養する。
- (3) 機械工学・電子情報通信工学・情報システム工学の各分野の研究活動で得られた研究成果は、国内外学会等で積極的に公表し、グローバルな素養やコミュニケーション能力を涵養する。

### 【アドミッション・ポリシー】

生産システム工学専攻は、「機械工学」「電子情報通信工学」「情報システム工学」の3分野で構成され、各分野において先端的な教育・研究を実施します。そのため、本専攻では、以下のような人材を求めます。

(求める学生像)

- (1) 「機械工学」「電子情報通信工学」「情報システム工学」のいずれかの分野において高い専門性を有し、さらなる高度な研究活動を志す人
- (2) 社会における種々の疑問や未解明な事象に興味と関心を持ち、これらの課題を自ら計画的に解明する強い意志を持つ人
- (3) 専門分野に関する知識や経験を継続的に発展させ、自分自身の能力を高めて社会に貢献しようとする人

る人

(4) 研究倫理と規範に基づき、生産システム工学の幅広い深化を目指す人

(選抜方法)

求める学生像(1)～(4)を満足することを確認するため、筆記試験、面接試験、出願書類の審査結果の各々に対して、論理的思考、論述能力、研究推進能力等の多角的な評価を行い、総合して選考します。

改 正 2021年4月28日